

聖書の読み方の三つのステップ

聖書をゆっくり、じっくり読むには、次の三つのステップを踏みます。

1. **熟読**: 御言葉が語る内容を客観的に把握する。
2. **解釈**: 初めの聞き手が理解した御言葉の意味を知る。
3. **適用**: 普遍的な真理をつかみ、私たちの生活に適用する。

準備するものは、聖書、色えんぴつ、定規です。色えんぴつ片手に印を付けながら読むと、読む速度がゆっくりとなり、内容をより深く理解できます。




色えんぴつ片手に
印をつけながら
線を引ながら
ゆっくりと
何回も読む。

ステップ1 **熟読** Observation

今読んでいる箇所が、何を語っているのかを客観的に把握するために、ゆっくりと、何度も御言葉を読みます。

まず始めに、これから読もうする聖書の箇所を一度通して読みます。この時、「いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのようにしたか」(英語の頭文字をとって **5Ws1H** と言います)を考えながら読んで下さい。

このゆっくり読む熟読を効果的にする道具が、色えんぴつ  です。

「いつ」 時間に関する言葉に色えんぴつで印を付けていきます。

- 自分で、時間に関する言葉に付ける印と色を決め、聖書を読む時はいつもその印をつけていくようにします。
- 時間に関する言葉は、いろいろあります。例えば、日時、朝、夜、早い、ゆっくり、祭り、前、後、何かをした時、などです。これらの言葉を見逃さないように注意し、印を付けながら読んで下さい。

「どこで」 場所に関する言葉に色えんぴつで印を付けていきます。

- 場所に関する言葉に、どのような印を付けるかを決めて下さい。
- 場所に関する言葉の例は、地名、ここ、そこ、遠く、近く、東西南北、何かをした所、などです。
- 地図を参照して、出てくる地名の位置を確認して下さい。

「誰が」 主な登場人物にも印を付けながら読みます。

- 歴史書、福音書: 神、アブラハム、サラ、イエス等、登場人物ごとに違う色や印を考えて付けて下さい。
- 手紙: 送り手と受け手。
- 預言書、詩歌: 誰が誰に語っているかに注意して下さい。

ここまでで、少なくとも5、6回は同じ箇所を読むこととなります。でも、色えんぴつで印を付けながら読むと、集中出来て、楽しく読めるのです。

印の例:

時間には緑色で○を書き、場所には緑色の二重線を引きます。このように、「いつ、どこで」という基本的な情報に緑色を使うことで、他の色を登場人物やキーワードに当てることが出来ます。

印を付ける目的:

- 読む速度をゆっくりさせ、内容をより深く理解する助けとします。
- あとで読み直す時に、どこに何が書いてあったかが一目で分かるようになります。

次に、**登場人物**に関してさらに理解を深めるために、登場人物に関する事柄を御言葉から抜き出します。例えば、フィレモン(ピレモン)への手紙の場合、差出人パウロについて分かることを、出来るだけ御言葉を使って、下記のようにノートなどにリストアップします。(この時に、パウロに印をつけていることが役立ちます。)

➤	パウロ
1 節	<u>キリスト・イエスの囚人</u>
4-5	<u>祈りの時にフィレモンを覚えて感謝。フィレモンの信仰と愛を聞いている。</u>
6	<u>フィレモンの信仰の交わりが強められることを祈る。</u>
7	<u>フィレモンの愛によって多くの喜びと慰めとを与えられた。</u>
}}}	
20	<u>主にあって益を得たい。主にあって力づけてもらいたい。</u>
21	<u>フィレモンの従順を堅く信じる。確かに言う以上のことをしてくれるだろう。</u>
22	<u>フィレモンの祈りによって、彼の所に行く予定。宿を用意しておいてほしい。</u>

その後、パウロについて気がついたことを、横に書き込みます。(自分の考えは、違う色のペンで書くと、御言葉と区別出来て、あとで読み返す時便利です。)同じ作業を、手紙の受け手のフィレモンやその他の登場人物(オネシモ)にもします。

それから、それぞれの間人関係を推測し、手紙が書かれた理由(「なぜ」)や、背景(「どのようにして」)等を探っていきます。

「何を」 キーワードにも印をつけて下さい。何が起きているのかに注意します。

- キーワードとは、繰り返されている言葉(名詞、動詞、形容詞等)か、その箇所テーマに関する大切な言葉です。
- 例えば、「愛」、「契約」、「～だからだ」、「聞く」、「悔い改める」、「大いに」等。

ここまでで、少なくとも 10 回は同じ箇所を読むことになります。

最後に、読んでいる箇所の**段落分け**をして、段落ごとの**内容を箇条書き**にして、聖書の余白に書き込みます。この時、出来るだけ御言葉を使って、客観的にまとめて下さい。熟読では、「御言葉が語る内容を客観的に把握する」のが目的ですから、自分がどのように感じたかは、このまとめには含めません。また、新共同訳の聖書では段落ごとに見出しが付いているので、見出しを参考にして自分で追加したい内容を書き込むようにして下さい。

ここまでが、熟読の作業です。

感謝と祈り	あいさつ
<p>わたしは、祈りの時にあなたをおほえて、いとわたしの神に感謝している。それは、主イエスに対し、また、すべての聖徒に対するあなたの愛と信仰について、聞いているからである。どうか、あなたの信仰の交わりが強められて、わたしたちの間でキリストのためになされているすべての良いことが、知られて来るようになってほしい。兄弟よ、わたしは、あなたの心によって多くの喜びと慰めとを与えられた。聖徒たちの心が、あなたによって力づけられたからである。</p>	<p>キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、姉妹アビヤ、わたしたちの戦友アルキボ、ならびに、あなたの家にある教会へ。わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。</p>

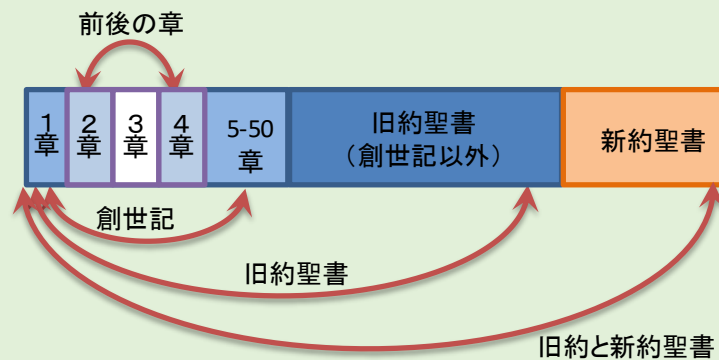
口語訳

ステップ2 解釈 Interpretation

初めの聞き手にとって、何を意味していたかを知るために、前後の文脈から意味を考えたり、参照聖句や参考図書を読んだりして、意味を探っていきます。

前後の文脈

例えば、創世記第3章を読む場合、その前後の章を読むことで、3章の出来事が起きた状況を理解できます。そして、だんだんとその範囲を広げて、創世記、旧約聖書、聖書全体へと、その出来事がどのような影響を及ぼしたか(もしくは、どのような関係があるか)を考えながら、読んでいきます。ただし、66書全部を読むのは大変ですので、関連のある参照聖句を選んで読んでいくことになります。



参照聖句

聖書の脚注にある参照聖句や、コンコルダンス、インターネットやアプリの聖書用語検索で、キーワードを含む聖句を探して読んでいきます。

熟読の時、登場人物に関する聖句を書き出したように、ここでも、参照聖句に出てくる、似たような表現や出来事を書き出し、比較し、気付いたことをまとめていきます。5Ws1Hの質問をしながら、深く探して下さい。また、疑問点も書き出して下さい。

参考図書

聖書から出来る限りの情報を得た後で、ここまでに分からなかったことについて、参考図書から答えを見つけて下さい。ただし、すべての疑問に対する答えが見つかるとは限りませんので、ここにあまり時間をかけなくてもいいです。

解釈は、今読んでいる聖書箇所には含まれていない情報を、前後の文脈や参照聖句を読むことで見つけ出し、参考図書で情報を補うことにより、「初めの聞き手が理解した意味」をつかむ作業です。

手紙や預言書を読む場合は、メッセージの聞き手、または受け手の状況を想像しながら、その人たちの気持ちになって読んで下さい。

検索した結果、どの参照聖句を読むべきかを知るのには、経験とコツがいります。

例えば手紙の場合、まずは、

- ① その手紙の中
- ② 同じ著者の手紙の中
- ③ 新約聖書
- ④ 旧約聖書

の順で参照聖句を読みます。試してみてください。

ステップ3 **適用** Application

初めの聞き手が理解した意味から、今度は**普遍的な真理**を導き出します。「普遍的」とは「すべてに共通しているさま」で、聖書の時代の人々と私たちの中で、時間がたっても廃れない共通の真理を見つけます。

例えば、

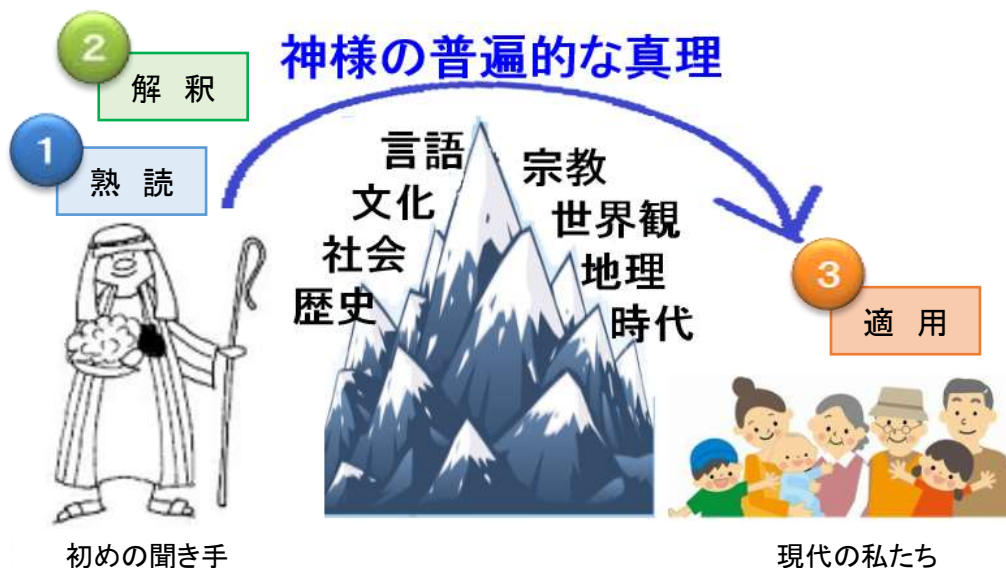
「キリストにある兄弟は、社会的な常識にとらわれず、キリストにあって互いに赦しあうべきだ。」

「私たちが罪を告白するなら、神は真実な方で、私たちの罪を赦して下さい。」

「父と母を敬いなさい。」

メッセージの内容が複雑な場合、適用のための真理が一つとは限りません。

最後に、この普遍的な真理を自分の生活にどのように適用するかを考えて下さい。そのためには、自分のどこを変える必要があるのか、何をすべきか等、祈りつつ考えて下さい。そして、**行動**に移して下さい。



最後に

ここでは三つのステップを紹介しましたが、慣れてくると熟読している最中に、意味がはっきりとわかったり、自分に適用すべき真理が示されたりすることがあります。その時は神様に応えて祈ってください。熟読が終わるまで、次のステップに行ってはならないということではありません。

実はこのような聖書の読み方を、「帰納的読み方」と呼びます。この読み方は時間がかかりますし、熟読には根気も必要。熟読だけで全体の七割もの時間を使います。けれども、このように聖書を読むことで、より正確な理解と解釈が可能となり、正しい適用につながります。私たちの人生の目標は、神様をより良く知り、神様を愛し、隣人を愛し、キリストに似た者となえられることです。そうすることで、私たちは神様に栄光を帰すことができます。この学び方を通して、皆さんがどのような善い業をも行うことができるよう十分に整えられますように。(第二テモテ 3:17)